

新札幌乳業株式会社

昭和28年創業の札幌市厚別酪農協同組合を前身とする新札幌乳業株式会社は、長年にわたり、安全・安心・高品質な乳製品の製造・販売を行い、平成26年11月には「食品衛生（牛乳衛生）功労者」として厚生労働大臣表彰を受賞した。同社と、循環酪農を実践する江別市の有限会社小林牧場、移動販売車による販売を行う株式会社北酪乳販の3者が連携し、新たな道産乳製品の開発に取り組んでいる。

北海道原料にこだわった 「のむヨーグルト」開発事業

生乳と砂糖だけのシンプルな製品を

北海道産品の中でも、特に消費者からの信頼が厚い乳製品。なかでもヨーグルト類は、近年の健康志向の高まりにより、潜在力の高い成長分野として食品業界で注目されている。同社では、朝食にヨーグルトを食べている人や若年層を中心とした朝食を摂っていない人向けの商品として、手軽に摂れて栄養価の高い朝食向けの「のむヨーグルト」が非常に有望であると考え、原料の生乳を供給する小林牧場、関東・東海エリアに移動販売車による対面販売網を持つ北酪乳販との連携により、新製品の開発に着手した。

開発にあたっては、他社製品との差別化を明確にするため「北海道産」を徹底し、原材料は生乳とビートグラニュー糖のみという基本に立ち返ったシンプルなものとした。また、生きた乳酸菌が腸まで届くプロバイオ乳酸菌（ピフィズス菌BB12）を使用し、健康面での機能性を高めた。そして、包材には手軽感がありコストも抑えられるトールカップを採用し、毎日気軽に美味しく飲めるヨーグルトが完成した。

「スーパーマーケットで買いたい!フード30選」に選出

原料となる小林牧場の生乳は、乳牛に与える牧草や、その生育に大きな影響を与える土づくりからこだわって生産された高品質なものである。この生乳を90%以上使用し、余分なものは加えずに付加価値を高めた「のむヨーグルト」は、「北海道産生乳と砂糖のみで仕上げた のむヨーグルト」という製品特性の分かりやすい商品名で、平成26年10月に販売を開始した。当初の約6万本/月から順調に実売数を伸ばし、平成27年2月時点で約7万本/月を販売しており、この間に販売エリアの拡大などはしていないことから、リピーターが確実に増えてきていることがわかる。

平成27年2月には日本最大級の商談専門展示会である「スーパーマーケット・トレードショー」に出展し、管理栄養士や料理研究家、一般消費者が審査委員となった「スーパーマーケットで買いたい!フード30選2015」に選出され、濃厚・クリーミーながら後味がさっぱりとした味わいや、商品名を含めたパッケージの分かりやすさなどで高評価を得た。

現在も、当面の目標である20万本/月の販売、さらにその先を目指し、新しいフレーバーの商品開発も進めている。



パッケージに細かく書かれた文字も消費者の興味をそそる



北酪乳販による対面販売。リピーター客も多い



小林農場で搾乳した新鮮な生乳が原料

どの商品よりも
美味しく安全な
トールカップ飲料を
目指しました

新札幌乳業(株)
商品開発本部 部長代理
中澤 卓司(写真上)
商品開発本部
中濱 義和(写真下)



原材料を極力シンプルにして、たくさん出回っているトールカップ商品の中でも、ワンランク上の製品をつくりたいと開発しました。味の面では砂糖を加えて飲みやすくしましたが、ヨーグルトの酸味という本来の「旨さ」を阻害しないよう加える量を検討し、すっきりとほのかに甘味を感じる割合で仕上げています。